



## 東日本大震災から14年

2011年3月11日に発生した東日本大震災から14年が経過しました。1万5,900名の尊い命が犠牲になり、今もなお、2,520名の方々が行方不明となっています（2025年3月1日現在）

また、甚大な被害を出した能登半島地震から1年以上が経過しています。改めて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

私たちは震災当時、仲間や家族の安否を心配する中でもお客さまの安全を最優先し、全員無事に避難することができました。また、全国の仲間から心温まる支援を多くいただき組合員の元へ支援物資を届け、労働組合の枠を超えて行動してきました。そして、私たちは全国の仲間が手を差し伸べてくれた力で逆境を乗り越えてきました

JR東労組として、東日本大震災の大きな教訓は「抵抗とヒューマニズム」です。困難な状況でも的確に判断し、全列車で無事に生還することができたのは日頃から安全第一、命を最優先する職場議論の積み重ねが根底にあったからです。

そして「仲間のために何ができるのか」というヒューマニズムの精神が、ボランティア活動や復興支援、そして被災した組合員の生活復興支援・当面の生活保障になるように、お見舞い金の支給などの取り組みを行いました。

東日本大震災以降、全国各地で地震や風水火などの予期せぬ自然災害が多く発生しています。防災意識は、災害を他人事ではなく「わがこと」として捉えることで養われます。今後、地震や津波などがどの地域でも「明日起こりうる」と日頃から意識して、防災・減災の観点で備えていくことが重要です。そして、近年私たちの想像をはるかに上回る自然の猛威、激甚化する災害に対しても、慣らされることなく、「いま何をなすべきか」を考えていかななくてはなりません。

## 東日本大震災から14年

# 仲間との絆で乗り越えてきた教訓を今後に活かしていこう！